

いくつといくつになるかかんがえよう

単 元	いくつといくつ	対象学年	1 年
ね ら い	10までの数の合成，分解の知識を定着することができるようにし，子どもたちが自ら学ぶ姿勢を育む。		

1 教具の作り方

・準備するもの

- プラスチックカード（縦10cm，横5cm程度） 23枚
- フック付きの画鋲 16個
- ひも50cm程度 1本
- コーナーガードクッション 1本
- 台紙 1枚

全て100円ショップで準備することができます。

- ① プラスチックカードに1～10までの数字を記入します。同じ色で2セット作る。
- ② 数字カードとは異なる色のカードに「は」「と」「で」を記入する。
- ③ フックにひっかけるための穴を23枚のカードすべてに開ける（図1参照）。
- ④ フック付きの画鋲を背面掲示板に付け，カードをぶら下げます。
- ⑤ 余りのカードも下にぶら下げておき，子どもたちが自由にカードを付け替えられるようにしておく。
- ⑥ 台紙の裏にひもを通して，両端をとめる。
- ⑦ コーナーガードクッションを3cm程度の厚さにカットし，ひもに付ける（図2参照）。
- ⑧ 3cm程度にカットしたコーナーガードクッションには，切込みを入れて，取り外し可能にする。



図1



図2

2 学習のしかた

休み時間に子どもが自主的にカードを動かします。友達同士で問題の出し合いをしたり，一人で練習したりします。まだ，数の分解についての知識が定着していない児童には，図2のような教具を使って，実際に具体物を動かしながら，学んでいきます。



かわいいカットと一緒に掲示すると、見栄えがします。

図3

図2の教具では、クッションが10個付いていますが、切込みが入っているので、例えば、「9はいくつといくつ」の時は、クッションを一つ取り外し、9個のクッションを動かしながら学習します。

「○は○と○」だけでなく、「○と○で○」に取り換えて学習することもあります。カードの取り換えは、子どもたちで自由に行うことができます。

3 学習上の留意点

- ・一人で学習する際、間違いに気付かず、学習していることがある。教師や、周りの子どもが気付いた時に、コーナーガードクッションの教具を使って考えるようにしたい。
- ・子どもが自由に取り外すため、画鋲が取れてしまうことがあった。
- ・1年生の子どもが自由にさわることができるようにするために、掲示の高さに留意する。
- ・学習時期が、1年生の1学期であるため、仲良く使えるように事前に指導する。

4 学習の効果

- ・子どもたち自ら操作することができる掲示なので、子どもたちの自主的な学びを促すことができた。
- ・教科書のカードゲームを学習した直後に掲示を作ると、子どもたちは、意欲を持って学習することができた。
- ・数という抽象的なものを分解することは、なかなか理解に苦しむ児童もいるので、コーナーガードクッションを使った教具と一緒に掲示することは、とても効果的だった。
- ・本単元は、数多くの練習量を確保したい単元であるので、何度も繰り返し使用できる点が、掲示としても教具としても大変効果的であった。
- ・問題の出し合いをすることで、いろいろな友達と話すきっかけづくりに効果があった。
- ・コーナーカードクッションの取り外しが簡単にできるので、操作活動を容易に行うことができた。



図4 掲示の全体イメージ